

## 「平成30年度『学びのスタンダード』推進事業」の推進地域の取組

パイロット校名	下郷町立下郷中学校、檜原小学校
推進協力校名	下郷町立旭田小学校、江川小学校

### 下郷町四つ葉のクローバープランをもとにした 「学びのスタンダード」推進事業（2年次）

下郷町では、児童生徒に確かな学力を身に付けさせるために「四つ葉のクローバープラン」事業を10年以上継続して進めている。「学びのスタンダード」推進事業も、この組織をもとに町内の小・中学校が連携して推進し、今年度、2年次の取組を進めてきた。

#### 1 パイロット校の取組内容

##### （1）「授業スタンダード」の活用について

###### ① 日々の授業づくり、授業改善のためのよりどころとしての活用

授業の充実に向けて、授業における課題の改善のためのヒントとして「授業スタンダード」の手立てを日々の授業に取り入れ、活用してきた。研究授業においても、「授業スタンダード」の視点を取り入れた授業づくりを行い、それを指導案に明記して授業を実践した。事後の研究協議においては、話し合いの視点として「授業スタンダード」を活用し、授業についての協議を進めた。

###### ② チェックシートの活用

年度当初に「授業スタンダード」の冊子にあるチェックシートを用いて授業のチェックを行い、授業の課題や学校全体としての強みと課題を洗い出した。その後、強みと課題の内容を重点化したり、新たな項目を付け加えたりしてチェックシートの自校化を図った。このチェックを年間5回行い、日々の授業を振り返ることで授業改善に役立ててきた。

研究授業においては、参観者が「授業スタンダード」の視点で授業をチェックするために活用した。授業者は、参観者からの客観的な評価をもとに自分の授業を振り返り、課題を明らかにしてきた。

##### （2）指導体制の工夫について

###### ① 中学校国語科、数学科における「タテ持ち」（下郷中学校）

国語科、数学科において「タテ持ち」の指導体制とした。

国語科では、2人の国語科担当教師が全学年の国語科を担当し、学年の系統を捉え中学校3年間を見通した指導ができるようにした。具体的には、右図のような指導体制をとった。

学年	1組	2組
1年	A先生	B先生
2年	B先生	A先生
3年	A先生	B先生

＜中学校国語科の「タテ持ち」＞

数学科では、推進教師を含めた3人の数学科担当教師で「タテ持ち」の指導体制をとった。個の実態に応じた指導ができるように、1・2年生をTTによる指導体制とし、3年生は習熟度別による指導体制とした。具体的には右図のような指導体制をとった。

学年	1組		2組	
1年	C先生(T1)		推進教師(T1)	
	D先生(T2)		D先生(T2)	
2年	D先生(T1)		推進教師(T1)	
	推進教師(T2)		D先生(T2)	
3年	Aコース	Bコース	Cコース	
	C先生	D先生	推進教師	

＜中学校数学科の「タテ持ち」＞

## ② 小学校算数科における「教科担任制」(檜原小学校)

第4学年・第5学年の算数科を推進教師による教科担任制とした。教師の専門性を生かした指導及び児童の実態に応じたきめ細かな指導を行うことができるよう、推進教師をT1、担任をT2とするTTによる指導体制とした。

学年	T1	T2
4年	推進教師	4年担任
5年	推進教師	5年担任

＜小学校算数科の「教科担任制」＞

## (3) 授業づくり相談会(ざっくばらん相談会)について

研究授業の前などに、「ざっくばらん相談会」といった授業づくり相談会を実施してきた。指導案の作成前の構想段階や作成途中に、教員同士でざっくばらんに意見を出し合い授業者とともに授業づくりについて考えてきた。

**「ざっくばらん相談会」の例**

研究授業に向けて

＜第1段階＞ 指導案作成の構想段階

こんな、流し方ができそうだね。

この単元の3時目の授業をしようと思うんだけど・・・

去年、私が授業をしたときはね、・・・

こんな教具を使いそうだね。

授業のイメージづくり

授業者

### ＜1回目の相談会＞

指導案作成の構想段階に相談会を実施し、授業のイメージづくりを行う。

### ＜2回目の相談会＞

指導案の作成途中に、2回目の相談会を行う。1回目の相談会をもとに授業者が考えてきた「授業の流れ」について話し合いを行う。授業の流し方や手立てが具体的になっていく。

＜第2段階＞ 指導案の作成途中

授業の流れをこんなふうと考えてみたんだけど

今、導入をどうするか悩んでいるんだ

OOを取り入れると、子どもたちがのってくと思うよ。

OOさんへの支援が必要じゃないかな。

「授業スタンダード」の、この手立てを使えるね。

授業の流し方、手立てがより具体的に



【ざっくばらん相談会の様子】

2度の「ざっくばらん相談会」を通して

↓  
指導案完成

#### (4) 域内授業づくり講演会の開催について

9月7日、福島学院大学客員教授の宮前貢先生をお招きし、域内授業づくり講演会を開催した。「子どもが学び合う授業づくりを考える」という演題で、思考力や表現力を育てるための授業づくりについて、御講演いただいた。

#### (5) 公開授業研究会の開催について

パイロット校Ⅰ（下郷中学校）では、11月14日に国語科（1年2組・2年1組）、数学科（2年2組）の2教科を公開し、パイロット校Ⅱ（檜原小学校）では、11月8日に国語科（3年生）、算数科（4年生）の2教科を公開した。事後研究会では、参会の先生方と「授業スタンダード」を活用した授業改善について協議した。

#### (6) 町内各校の授業研究会への参加について

推進教師が、推進協力校など町内各校の授業研究会に参加し、「授業スタンダード」の視点で授業を参観、事後の話合いを行い、授業づくりについて互いに学びを深めてきた。

## 2 推進協力校の取組内容

#### (1) パイロット校と連携した、「授業スタンダード」の活用

パイロット校と連携し、「授業スタンダード」を活用した授業実践を行うとともに、チェックシートによる評価を生かした授業改善を行った。

#### (2) 推進教師の活用

校内授業研究会の事前・事後研究会において推進教師を活用し、授業づくりについて一緒に考える機会とした。



【事後研究会の様子（旭田小）】

## 3 成果と次年度へ向けて

#### (1) 成果

- ① チェックシートによる評価を定期的実施することで、授業づくりの課題が明確になり、授業改善に向けた意識が高まった。また、「授業スタンダード」を活用した授業づくりにより、日々の授業が充実してきた。
- ② 中学校における「タテ持ち」、小学校における「教科担任制」により、教材研究が充実するとともに、内容の系統性を意識した指導の充実が図られた。

#### (2) 次年度へ向けて

- ① 日々の授業において、さらに「授業スタンダード」を活用し、授業の改善を図る。
- ② パイロット校と推進協力校の共通実践や推進教師のさらなる活用など、実践を通して、より連携を密にした取組を行っていく。

# 学びのスタンダード だより



学びのスタンダード

推進教師

No.1

H30.5.29



## 学びのスタンダード推進事業とは？



### 目的

福島県の復興を進め、未来を担う子どもたちにとって、「人づくり」の根幹である教育が果たす役割は極めて大きい。そのため、これまで行われてきた「『つなぐ教育』推進事業」の成果である学校・家庭・地域の協働・連携の成果を生かしながら、引き続き課題となっている教員の指導力向上を図っていく必要がある。

ふくしまの未来を担う子どもたちに確かな学力を身につけさせるため、県内すべての小・中学校において『学びのスタンダード（「授業スタンダード」および「家庭学習スタンダード」）』を基盤とした、より質の高い授業や効果的な家庭学習の実践および各学校における研修の充実に努め、教員の授業改善、指導力の向上を図っていききたい。

### 実施方法

- ・各教育事務所に2か所程度指定する（南会津教育事務所は1か所）。
- ・事業推進校（「パイロット校」）を指定する。

パイロット校Ⅰ：下郷中学校（推進教諭：万崎公彦）

パイロット校Ⅱ：榎原小学校（推進教諭：湯田克也）

推進協力校：江川小学校、旭田小学校

### 公開授業研究会

・榎原小学校 11月 8日（木）

・下郷中学校 11月14日（水）

### パイロット校・推進教師としての役割

- ① 授業スタンダードチェックシートを用いた強みと課題の分析（SWOT分析）  
普段の授業などで定期的実践していただいていると思いますが、推進教師としては5月末、1学期末、2学期末、互見授業、授業研究などの複数回を実施予定です。  
なお、チェックシート以外にも記述式のアンケートも実施予定です。
- ② 学びのスタンダードチェックシートを用いた授業参観と相談（各教科等）  
普段の授業における授業相談、研究授業時における相談（事前・事後研究会への参加などを実践予定）。

- ③ 「学びのスタンダードだより」の発行
- ④ 「授業スタンダード・チェックシート」の改善（自校化を図る）

#### 各学校で推進していくこと

- ① 先生方同士によるコミュニケーションの拡大
  - ・相談体制の確立
  - ・普段の授業の話をする機会の増加
  - ・先生方の授業に対する自己分析と相談
- ② 授業改善チェックシートを用いた日々の授業のチェック（定期的に）
- ③ 研究授業時における互見授業
- ④ 研究授業以外の互見授業の機会を増やす
  - ・部分的な互見授業（導入部分、展開部分、まとめ部分など）
  - ・授業後の板書の互見
  - ・授業スタンダードチェックシートを用いての参観
- ⑤ 「授業スタンダード・チェックシート」の自校化
- ⑥ 家庭学習スタンダードの活用方法についての研究と共有など（今年度新たな試み）
  - ・今年度、家庭学習の充実に向けた取組等についてまとめ、県教育委員会のホームページに掲載し、県内全域への普及を図ります（9月及び3月）。

#### パイロット校における実践

##### 檜原小学校

教員の専門性を生かし、教科担任制を行う。

（4年生・5年生の算数の授業において、T1として授業を展開）

##### 下郷中学校

国語の授業において、タテもちの授業を展開。

数学の授業については、次のように展開。

1年生については、TTを実施している。T2の先生は、週に2回参加。

2年生についても、TTを実施。ただし、T1とT2の先生を入れ替えて実施。

3年生については、2クラスを習熟度別3つのコースに分けて、授業を実施。

##### 今までの取組の成果

休み時間や放課後など、適宜教科部会を行い、進捗状況や生徒の理解度について話をする場面が明らかに増えています。また、課題の与え方や小テストの実施の仕方、定期テストの打ち合わせなど、教師同士の学び合いの時間が増えています。

今年度は、昨年度と同様、各学校での実践などについての情報を共有するために、学びのスタンダードだより（研修だより）を発信していきたいと思っております。

また、研究授業などには積極的に顔を出していきたいと思っておりますので、一声かけて下さい。

# 学びのスタンダード だより



学びのスタンダード

推進教師

No.3

H30.6.25

## 「授業スタンダード」チェックシート（初回）の集計より

先日、町内各学校で「授業スタンダード」チェックを実施し、普段の自分の授業について振り返っていただきました。各校の集計結果から町内4校の平均を出してみると、以下のような結果になりました。

### <授業の充実のために>

番号	項目	町内4校平均 ※4が最高
1	単元（題材）の構想を明確にもっている。	2.94
2	本時のねらいを明確にもっている。	3.08
3	授業の約束事や学習に向かう心構えを指導している。	3.25
4	子どもの「問い」や「思い・願い」を引き出し、学習課題を設定している。	2.61
5	子ども一人一人に追究・解決の計画や見通しをもたせている。	2.48
6	机間指導で子どもを見取り、適切に支援している。	2.76
7	ペア学習やグループ学習を取り入れる目的を明確にもっている。	2.78
8	本時のねらいに迫るように話し合いをコーディネートしている。	2.48
9	本時で学習したことを明確にし、振り返りを工夫している。	2.69
10	新たな学びに目を向けさせる終末になっている。	2.36
11	授業の流れが分かり、構造的な板書になっている。	2.44
12	吟味し精選された発問をしている。	2.39
13	ノート指導を継続的に行っている。	2.40

### <校内研修の活性化のために>

番号	項目	町内4校平均 ※4が最高
1	授業研究会に主体的に参加している。	3.04
2	教科や学年の枠を越えて、学び合っている。	2.82
3	互見授業を行うなど、日常的に授業研究をしている。	2.09
4	外部講師の助言や校外研修の成果を共有し、日々の授業に生かしている。	2.80
5	「授業スタンダード」を積極的に活用している。	2.80

# 「授業スタンダード」チェック（初回）における町内4校の傾向

今回の「授業スタンダード」チェックの結果から、町内として、以下のような傾向があると考えられます。

## ＜授業の充実のために＞

### ○「強み」と言えること

- ・ 授業の約束事や学習に向かう心構えを児童・生徒にしっかりと指導し、学習習慣を身につけさせていること。
- ・ 各教科の授業において、単元の構想や本時のねらいを明確にもって指導を行っていること。

### ○課題と考えられること

- ・ 子ども一人一人に追究・解決の計画や見通しをもたせること。
- ・ 発問を吟味・精選するとともに、ねらいに迫るように話し合いをコーディネートすること。
- ・ 授業の流れが分かる、構造的な板書をし、ノート指導を継続すること。
- ・ 新たな学びに目を向けさせる終末にすること。

## ＜校内研修の活性化のために＞

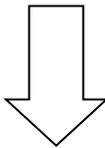
### ○「強み」と言えること

- ・ 授業研究会に主体的に参加し、教科や学年の枠を越えて学び合っていること。先生方の、学ぼうとする意識が高いこと。

### ○課題と考えられること

- ・ 互見授業を行うなど、日常的に授業研究をすること。

堅苦しく考えず、気軽に授業を見せ合える雰囲気づくりができるといいですね。



## 今後に向けて

今回のチェックの結果を受けて、「強み」を生かしながら、課題と考えられることを少しずつ伸ばしていきたいと考えています。できることから少しずつ取り組んでいきましょう。

### 発問

発問のポイント	具体的な内容
<input type="checkbox"/> 「問い」や「思い・願い」を引き出す。 <input type="checkbox"/> 学習課題を明確にする。	<input type="checkbox"/> 子どもの既成概念をゆさぶる資料や事象提示などと結び付ける。 <input type="checkbox"/> 誘い込むような口調で具体的に発問し、興味・関心をもたせたり、疑問、驚き、矛盾、憧れを感じさせたりする。
<input type="checkbox"/> 課題の追究・解決の見通しをもたせる。 <input type="checkbox"/> 課題の追究・解決に取り組ませる。 <input type="checkbox"/> 課題の追究・解決をより確かなものにする。	<input type="checkbox"/> 中心発問を精選し、できるだけ少ない発問にする。 <input type="checkbox"/> 子どもの考えを広げ深めるために問い返しやゆさぶりなどの働きかけをする。 <input type="checkbox"/> 多様な考えを比較、検討、選択、統合などするための発問をする。
<input type="checkbox"/> ねらいと対応させてまとめる。 <input type="checkbox"/> 新たな学びへの意欲付けを図る。	<input type="checkbox"/> ねらいに即したまとめを行うとともに、分かったことやできるようになったことを自覚させる。 <input type="checkbox"/> 次時への学習意欲を喚起する。
※ その他の留意事項	<input type="checkbox"/> 発問に対する応答を予想しておく。 <input type="checkbox"/> 発問の意図と内容を明確にし、1回で子どもに伝わるようにする。 <input type="checkbox"/> 発達段階にあった適切な言葉を用いる。 <input type="checkbox"/> 子どもたちのよいモデルとなる話し方をする。 <input type="checkbox"/> 話す速さ、言葉の調子と抑揚、間の取り方、豊かな表情を意識する。

### □ 共有させるための教師の働きかけの例

- 【予想】「〇さんの式の意味を説明できますか」  
 「〇さんの考えの続きが言えますか」  
 【再生】「〇さんの説明をもう一度言えますか」  
 【換言】「〇さんの考えを別の言い方で言えますか」  
 【要約】「〇さんの考えを簡単に言えますか」  
 【共感】「〇さんの気持ちが分かりますか」  
 【発見】「〇さんの考えのよいところはどこですか」  
 【補助】「〇さんの考えのヒントが言えますか」

### □ 考えを深めるための問い返しの例

- 【事実】「どういうことですか」  
 【方法】「どのように考えたのですか」  
 【理由】「どうしてそうなるのですか」 など



「授業スタンダード」より